

## 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成 28年 1月 20日

協議会名: 輪島市離島航路改善協議会

評価対象事業名: 離島航路運営費等補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
へぐら航路株式会社	輪島～舳倉島	<p>利便性確保のため、1日1往復の運行を維持した。</p> <p>教育委員会との連携による小中学生の体験学習等での利用や、利用促進のためのPRを引き続き実施し、利用者の増加に努めた。</p> <p>無駄な支出がないよう経費の削減に努めた。特に、資金繰りのための借入金を輪島市から借入れることにより、利息額を抑制し、今後退職金の支払がある年だけ突出して欠損額が大きくなるならないよう退職引当金の処理を開始した。</p>	<p>A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された</p>	<p>事業が計画に位置づけられた目標を達成できていない点があった</p>	/
				<p>年間利用者数 【目標】9,042人以上 【実績】8,904人 ⇒未達成</p>	<p>多くの利用者が見込める時期での欠航があり、またH26.4月からの増税による運賃増が、少なからず影響していることから目標を達成できなかったものと考えられる。今後は多少の社会情勢の変化や、荒天があっても目標を達成できるように、引き続き利用促進策を継続して行く。</p>
				<p>年間貨物輸送量 【目標】2,472t以上 【実績】2,944t ⇒達成</p>	<p>舳倉島での漁の状況により貨物輸送量が左右されることもあるが、重要な収入源となっているため、引き続き安全を最重要事項に掲げ、確実な輸送を行う。</p>
				<p>収支率 【目標】30%以上 【実績】34.3% ⇒達成</p>	<p>今後も収入を増加させつつ、費用を削減できるように努める。</p>
				<p>情報発信 【目標】積極的な情報発信を実施する 【実績】積極的な情報発信を実施した ⇒達成</p>	<p>利用者数を増加させるため、引き続き情報発信を継続する。</p>
				<p>運行体制の維持 【目標】1日1往復の運行体制の維持 【実績】維持している ⇒達成</p>	<p>利用者の利便性を確保するため、引き続き1日1往復の運行体制を維持して行く。</p>

## 事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

平成 28年 1月 20日

協議会名:	輪島市離島航路改善協議会
評価対象事業名:	離島航路運営費等補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>石川県輪島市の舳倉島は人口が110人(平成22年国勢調査)で、周囲が5.2kmと小さな島であるが、海女漁が盛んなことで知られ、バードウォッチャーや釣客にも人気が高い。</p> <p>日本海側中央部において地勢的に重要な位置にあり、その周囲には広大な排他的経済水域を有している。舳倉島は、我が国に貴重な資源をもたらしているとともに、防災・治安等の国家的な機能も果たしているが、この機能は島民の定住によって一層高まっている。</p> <p>輪島港と舳倉島を結ぶ離島航路は、本土輪島市と舳倉島間の海上50kmを結ぶ唯一の公共交通であり、本土輪島市の病院への通院、生活用品の買い出し等に必要不可欠な生活の足となっている。</p> <p>従来から舳倉島は人口が少ないことと、本土からの距離が遠いことが起因し、航路の採算をとることが難しく、今後も航路の経営は非常に厳しい状況にある。</p> <p>地域公共交通確保維持事業により離島航路を維持し、将来に渡り島民の生活の足を守り、舳倉島の離島としての重要な機能を確保していくことを目指す。</p>